B6FJ-6531-01

LIFEBOOK

補足情報

『取扱説明書』の補足情報です。
より詳しい使い方や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

●パソコンに添付の紙マニュアルもあわせてご覧ください。

ただし、このほかにもマニュアルが添付されている場合があります。

□『箱の中身を確認してください』



添付の機器、マニュアルなどの一覧です。ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

□『取扱説明書』



使用上のご注意、パソコンを使うための準備、基本的な取り扱い方法、ご購入時の状態に戻す方法、お問い合わせ方法などを説明しています。

□『らくらくパソコン活用ブック』



普段よく使う機能について、わかりやすく説明しています。

FUJITSU

目次

本書をお読みになる前に

本書の表記

本書の内容は 2011 年 5 月現在のものです。

■ 安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
🚫	🚫で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。
これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
Point	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
➡	以降の手順が分かれることを表しています。
📄	冊子のマニュアルを表しています。
💿	CD や DVD などのディスクを表しています。
→	参照ページを表しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【確定・改行 Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【シフト Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「▶」でつなげて記述しています。

例：（スタート）をクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows® 7 Ultimate Service Pack 1 適用済み 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（64 ビット版）または Windows 7 Ultimate
Windows® 7 Ultimate Service Pack 1 適用済み 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（32 ビット版）または Windows 7 Ultimate
Windows® 7 Professional Service Pack 1 適用済み 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（64 ビット版）または Windows 7 Professional
Windows® 7 Professional Service Pack 1 適用済み 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（32 ビット版）または Windows 7 Professional
Windows® 7 Home Premium Service Pack 1 適用済み 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（64 ビット版）または Windows 7 Home Premium
Windows® 7 Home Premium Service Pack 1 適用済み 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（32 ビット版）または Windows 7 Home Premium
Windows Vista®	Windows または Windows Vista
Windows® XP	Windows または Windows XP
Windows® Internet Explorer® 9	Internet Explorer 9 または Internet Explorer
Microsoft® Office Personal 2010	Office 2010 または Office Personal 2010

製品名称	このマニュアルでの表記
Microsoft® Outlook® 2010	Outlook 2010 または Microsoft Outlook 2010
Microsoft® PowerPoint® 2010	PowerPoint 2010 または PowerPoint
Windows Media® Player 12	Windows Media Player
Windows® Media Center	Windows Media Center
Corel® WinDVD®	WinDVD
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、Internet Explorer、Outlook、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation および／またはその関連会社の商標です。
インテル、Intel、インテル Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Corel、Corel のロゴ、WinDVD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS Surround Sensation | UltraPC and the DTS logos are trademark of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.
Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS Boost and the DTS logos are trademark of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.
HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

1. フラットポイント

フラットポイントの使い方

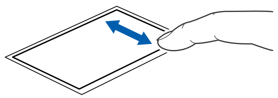
フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。
フラットポイントの基本操作については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「フラットポイント」を ご覧ください。

「コントロールパネル」の「マウス」で設定することで、フラットポイントをさらに便利に使えるようになります。

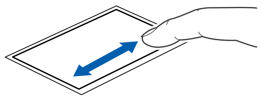
■ 1 本指でのスクロール

フラットポイントの操作面の右端や下端をなぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。

- 上下にスクロールしたい場合
  フラットポイントの操作面の右端を上下になぞります。



- 左右にスクロールしたい場合
  フラットポイントの操作面の下端を左右になぞります。

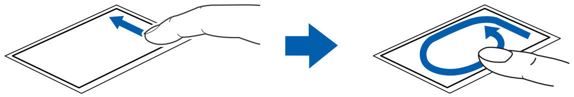


■ ジェスチャー機能

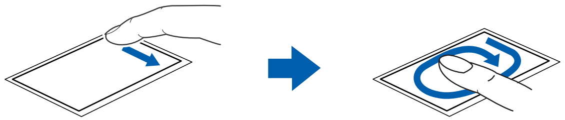
フラットポイントの操作面で、次のような操作を行うことができます。

- ChiralMotion（カイラルモーション）スクロール
  1 本指でのスクロールをした後に、そのままフラットポイントの操作面から指を離さずに、フラットポイント内を時計回りや反時計回りになぞると、指を動かしている間、ウィンドウ内のスクロールが続きます。

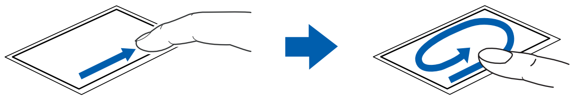
  上方向にスクロールし続ける場合



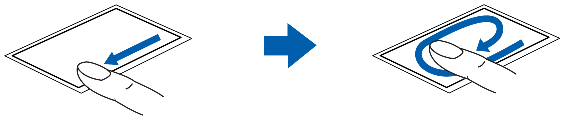
  下方向にスクロールし続ける場合



  右方向にスクロールし続ける場合



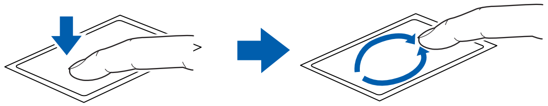
  左方向にスクロールし続ける場合



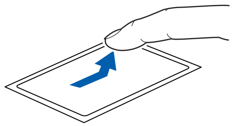
● つまみズーム
フラットポイントの操作面で､2 本の指でつまんだりひらいたりする動作をします。つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらく操作をすると拡大表示されます。



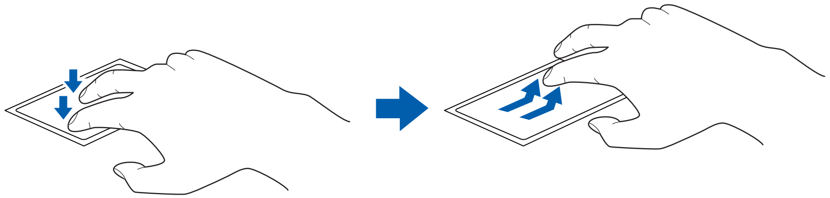
● 回転
フラットポイントの操作面の左端に指を置き、そこから時計回りまたは反時計回りに円を描くようになぞります。
なぞった方向に画像を 90 度単位で回転させることができます。



● Momentum（モーメンタム）
フラットポイントの操作面をすばやくなぞると、しばらくの間、なぞった方向にポインターが動きます。



● 2 本指で弾く
フラットポイントの操作面に 2 本の指を置き、すばやく横にはらいます。右にはらうと、次の画像を表示したり、Internet Explorer などの「進む」と同様の動きをしたりします。左にはらうと、前の画像を表示したり、Internet Explorer などの「戻る」と同様の動きをしたりします。うまく反応しない場合は、2 本の指を少し離して操作してください。



■ 各機能を使えるように設定する

1 本指でのスクロール機能やジェスチャー機能は、「コントロールパネル」の「マウス」で設定します

Point

- ソフトウェアによっては、1 本指でのスクロール機能やジェスチャー機能が使えない場合があります。

1 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックします。**

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 **「マウスのプロパティ」ウィンドウの「デバイス設定」タブ▶「設定」をクリックします。**

「デバイス設定」ウィンドウが開きます。



各設定項目に「ビデオを見る」がある場合は、クリックすると、各機能の操作方法を動画で見ることができます。

●1 本指でのスクロール

「デバイス設定」ウィンドウ左の「スクロール」▶「1 本指でのスクロール」をクリックし、「垂直スクロールを使用する」や「水平スクロールを使用する」の□を☑にして「適用」をクリックします。

●ChiralMotion(カイラルモーション)スクロール

「デバイス設定」ウィンドウ左の「スクロール」▶「1 本指でのスクロール」をクリックし、「ChiralMotion スクロール」の□を☑にして「適用」をクリックします。

●つまみズーム

「デバイス設定」ウィンドウ左の「つまみズーム」をクリックし、「つまみズームを有効にする」の□を☑にして「適用」をクリックします。

●回転

「デバイス設定」ウィンドウ左の「回転」をクリックし、「ChiralRotate を有効にする」の□を☑にして「適用」をクリックします。

●Momentum(モーメンタム)

「デバイス設定」ウィンドウ左の「ポインティング」▶「Momentum(モーメンタム)」をクリックし、「Momentum(モーメンタム)を使用する」の□を☑にして「適用」をクリックします。

●2 本指で弾く

「デバイス設定」ウィンドウ左の「アプリケーション操作」▶「2 本指で弾く」をクリックし、「2 本指で弾く行為を有効にする」の□を☑にして「適用」をクリックします。

その他の設定

■ 左きき用に設定する

（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ボタン」タブの設定画面から変更することができます。

■ ポインターのデザインを変える

（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ポインター」タブの設定画面から変更することができます。

■ マウスポインターの速度を変える

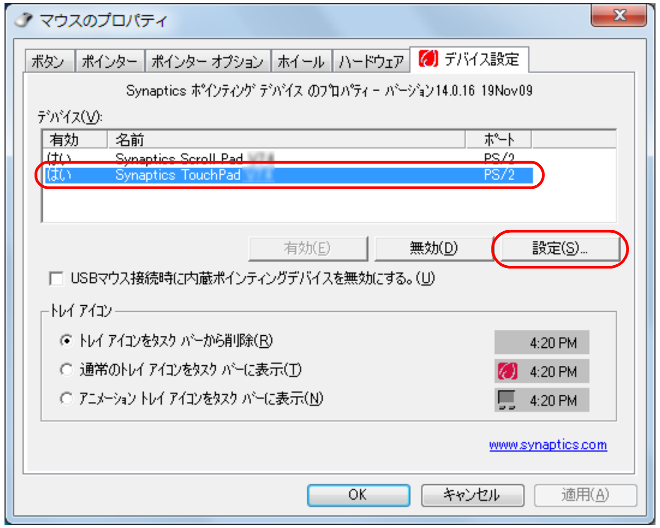
（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ポインターオプション」タブの設定画面から変更することができます。

■ フラットポイントのタッチの感度を変更する

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックします。

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス設定」タブの「Synaptics TouchPad」を選択し、「設定」をクリックします。



（画面は機種や状況により異なります）

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

3 「ポインティング」の左にある「+」▶「感度」の左にある「+」の順にダブルクリックします。

4 「タッチ感度」をクリックして、タッチ感度の設定を変更します。

スライダーを「軽く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「重く」側に動かすとタッチ感度が下がります。

5 「OK」をクリックします。

■ シングルクリックとダブルクリックの設定を変更する

(スタート)▶「コントロールパネル」▶「デスクトップのカスタマイズ」▶「フォルダーオプション」の順にクリックし、「全般」タブの「クリック方法」で設定を変更することができます。

フラットポイントの有効／無効の切り替え

ここでは、USB マウスを接続したときのフラットポイントの動作を設定する方法について説明しています。

Point

- ご購入時の状態では、パソコンに USB マウスを接続すると、フラットポイントが無効になるよう設定されています。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。

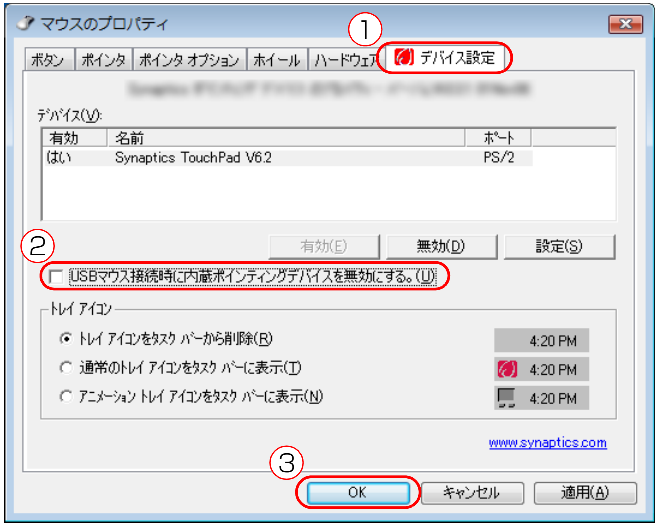
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 次の操作を行ってください。

①「デバイス設定」タブをクリックします。

②「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」をクリックして□にします。

③「OK」をクリックします。



（画面は機種や状況により異なります）

これで、パソコンに USB マウスを接続していてもフラットポイントが使える状態（有効）になりました。

Point

- USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」をクリックして☑にし、「OK」をクリックします。

2. ディスプレイ

解像度と発色数についての注意

パソコンの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの他に、次のディスプレイやテレビにも表示することができます。
・パソコン本体の外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイ
・パソコン本体の HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ
ディスプレイにパソコンの画面を表示するときは、次の点に注意してください。

- ソフトウェアによっては、解像度および発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。ソフトウェアの動作環境を確認し、解像度および発色数を変更してください。
- 外部ディスプレイやデジタルテレビで表示できる解像度は、ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイに対応している外部ディスプレイやデジタルテレビの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイまたは接続したディスプレイの、どちらかの最大解像度の小さい方に設定されます。
- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面は、液晶ディスプレイの画面と同一の解像度になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→ P.15）の表の組み合わせ以外には設定しないでください。
- 画面の解像度や発色数、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。
- パソコンの液晶ディスプレイ、外部ディスプレイ、およびデジタルテレビなどの３つのディスプレイでの同時表示はできません。
- HDMI 出力端子で出力した場合、出力先のデジタルテレビでは画面の端が一部欠けることがあります。このような場合は、外部ディスプレイやデジタルテレビ側で設定を「ドットバイドット表示」などに変更してください。
  詳しくは、お使いのデジタルテレビや外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数は、次のとおりです。

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1366 × 768	○	●

注 1：○は表示可能。●はご購入時の設定です。

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色（擬似的に色を表示するディザリング機能を利用）

外部ディスプレイやデジタルテレビの接続

外部ディスプレイやデジタルテレビを接続するとできること

パソコン本体に外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2 つのディスプレイに同時に表示する。
- 2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。
- 接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力する。

ここでは、外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する手順について説明しています。

重要

- HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力するには、設定が必要な場合があります（→ P.27）。

必要なものを用意する

● 外部ディスプレイやデジタルテレビ
外部ディスプレイやデジタルテレビによって接続するコネクタや接続方法が異なります。それぞれのコネクタに対応したディスプレイは次のとおりです。なお、接続するときは、必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。
・外部ディスプレイコネクタ
CRT ディスプレイや液晶ディスプレイをアナログ接続することができます。
・HDMI 出力端子
デジタルテレビや液晶ディスプレイで HDMI 対応のものを接続することができます。

● ケーブル
外部ディスプレイやデジタルテレビとパソコンを接続するケーブルです。
・外部ディスプレイコネクタとの接続：ディスプレイケーブル
・HDMI 出力端子との接続：HDMI ケーブル

● 外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアル
外部ディスプレイやデジタルテレビにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する

⚠ 警告

● 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 パソコン本体にケーブルを接続します。
次のケーブルで接続します。
・外部ディスプレイコネクタとの接続：ディスプレイケーブル
・HDMI 出力端子との接続：HDMI ケーブル
ケーブルを接続する場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

3 外部ディスプレイやデジタルテレビにケーブルのもう一方のコネクタを接続します。
接続方法は、外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 外部ディスプレイやデジタルテレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

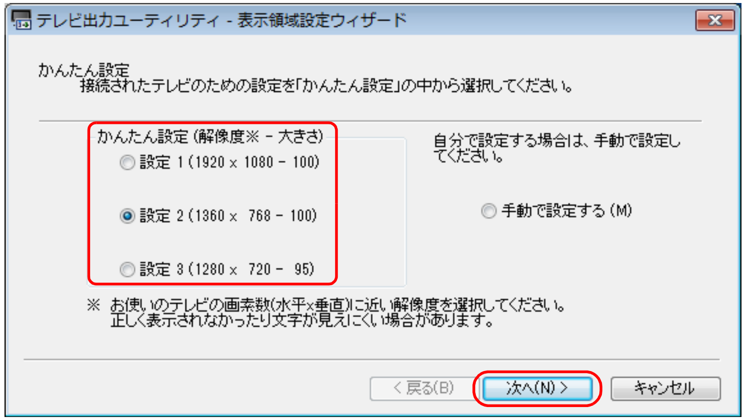
5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。
必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイやデジタルテレビ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

- 外部ディスプレイやデジタルテレビに CD-ROM などで必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、添付のマニュアルをご覧になり、必要なファイルをインストールしてください。

Point

- 外部ディスプレイやデジタルテレビを接続後、接続したディスプレイのみに表示する設定にしていても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- 液晶ディスプレイや接続した外部ディスプレイやデジタルテレビに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度や発色数については、「解像度と発色数についての注意」（→ P.11）をご覧ください。
- デジタルテレビの表示を調整する
パソコンの画面がデジタルテレビに正しく表示されない場合、デジタルテレビ側の表示領域設定を変更することで、最適な表示に切り換わることがあります。デジタルテレビのマニュアルをご覧になり、設定を変更してください。
デジタルテレビ側で設定を変更できなかったり、設定を変更しても画面の端が欠けて表示されてしまったりする場合などは、次の手順で「テレビ出力ユーティリティ」で設定を変更してください。
  1. （スタート）▶「すべてのプログラム」▶「テレビ出力ユーティリティ」▶「テレビ出力ユーティリティ」の順にクリックします。
  テレビ出力ユーティリティが起動します。
  2. 「かんたん設定を開始」をクリックします。
  お使いのデジタルテレビが「かんたん設定」に対応していない場合は、「設定がありませんでした」という画面が表示されます。この場合は「次へ」をクリックし、画面の指示に従って手動設定してください。
  3. 「かんたん設定（解像度※ - 大きさ）」で設定したい値の ○ をクリックして ◉ にし、「次へ」をクリックします。
  「かんたん設定（解像度※ - 大きさ）」に表示される項目は、お使いのテレビにより異なります。



  一覧に設定したい値が表示されない場合は、「手動で設定する」の ○ をクリックして ◉ にし、画面の指示に従って手動設定してください。
  4. 画面の指示に従って操作し、設定を完了してください。
  テレビのマニュアルもご覧になり、設定してください。

外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数

■ 外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイの場合

接続した外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
外部ディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いの外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 800 [注 3]	○	○
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 [注 3]	○	○
1440 × 900 [注 3]	○	○
1600 × 900 [注 3]	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050 [注 3]	○	○
1920 × 1080 [注 3]	○	○
1920 × 1200 [注 3]	○	○

注 1：○は表示可能。ただし外部ディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。
注 2：High Color … 約 6 万 5 千色　True Color … 約 1677 万色
注 3：外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

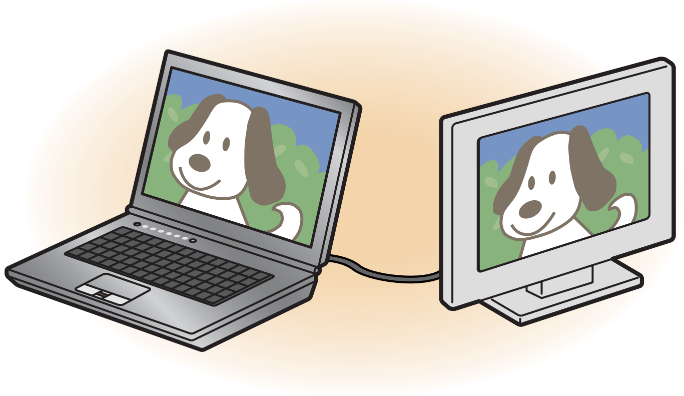
■ HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイの場合

接続したデジタルテレビやディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
デジタルテレビやディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いのデジタルテレビやディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]		出力方式とリフレッシュレート [注 3]		
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）	720p（750p）	1080i（1125i）	1080p（1125p）
1280 × 720	○	○	59Hz/60Hz プログレッシブ	−	−
1360 × 768	○	○	−	−	−
1920 × 1080	○	○	−	29Hz/30Hz インターレース	59Hz/60Hz プログレッシブ

注 1：○は表示可能。ただし接続したデジタルテレビやディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。
注 2：High Color … 約 6 万 5 千色　True Color … 約 1677 万色
注 3：HDMI 出力端子から出力できる映像信号

■ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の場合



液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- 液晶ディスプレイ
  主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
- 外部ディスプレイ
  2 番目のディスプレイ：PC モニター

このパソコンの液晶ディスプレイの解像度は、「液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数」（→ P.12）をご確認ください。

外部ディスプレイの解像度は、外部ディスプレイのマニュアルにてご確認ください。

液晶ディスプレイの解像度以下であり、かつ、お使いの外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。

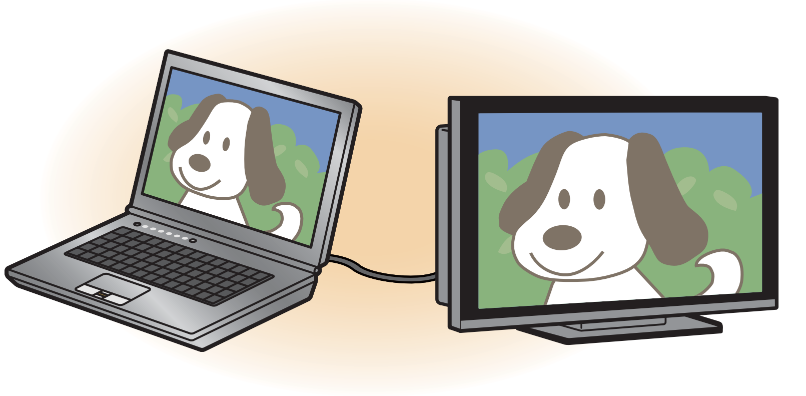
解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 800 [注 3]	○	○
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 [注 3]	○	○

注 1：○は表示可能。ただし液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色（液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用）

注 3：外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

■ 液晶ディスプレイとデジタルテレビの同時表示の場合



液晶ディスプレイとデジタルテレビに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- 液晶ディスプレイ
  主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
- デジタルテレビ
  2 番目のディスプレイ：デジタルテレビ

接続したデジタルテレビがサポートしている次の解像度を表示できます。

解像度（ピクセル）	発色数［注 1］［注 2］	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
1280 × 720	○	○

注 1：○は表示可能

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色（液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用）

■ マルチモニターの場合



マルチモニター機能をお使いになるときは、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- 液晶ディスプレイ
  主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
- 外部ディスプレイやデジタルテレビ
  2 番目のディスプレイ：PC モニター

液晶ディスプレイ、外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイ、HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

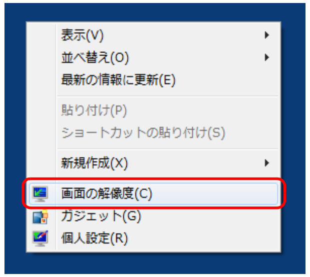
画面の解像度や発色数の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度や発色数を変更する方法について説明しています。

重要

- 設定変更時の画面表示の乱れについて
  解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

2 解像度を変更します。

「解像度」の ▼ をクリックし、表示される画面で解像度を選択します。



解像度の変更
をドラッグします。

接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、「ディスプレイ表示の変更」でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

3 「適用」をクリックします。

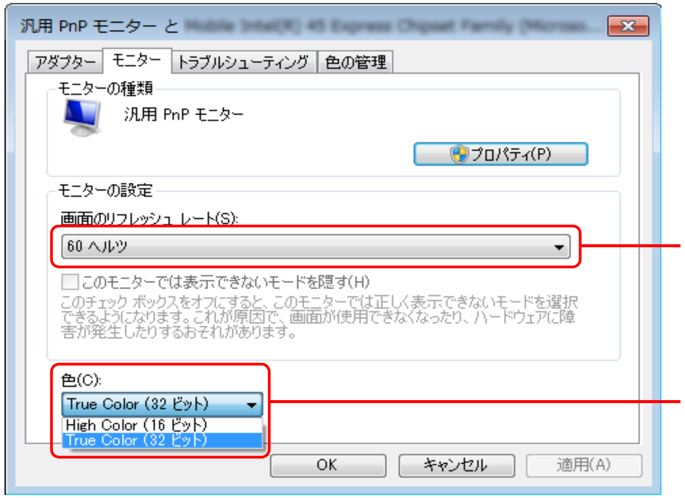
設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックします。

発色数を変更しない場合は手順 7 へ進みます。

4 「画面の解像度」ウィンドウで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。

5　発色数を変更します。

「色」の をクリックし、表示されるメニューから発色数を変更します。



リフレッシュレートの変更
 をクリックして選びます。

発色数の変更
 をクリックして発色数を選びます。

リフレッシュレートもここで変更できます。

6　「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

7　「OK」をクリックします。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイやデジタルテレビなどを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。
ここでは、切り替え方法について説明しています。



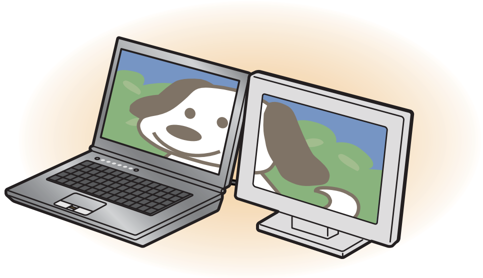
Point

- 「Fujitsu Display Manager」を起動して、表示するディスプレイを切り替えることもできます。

ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- **1 つのディスプレイで表示する**
  - ・パソコン本体の液晶ディスプレイ
  - ・外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイ
  - ・接続したデジタルテレビ
- **2 つのディスプレイで同時に表示する**
  - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ
  - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続したデジタルテレビ
- **2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する**



2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」（→ P.23）をご覧ください。

重要

- 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。

Point

- HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイには、BIOS セットアップの画面を表示することはできません。
- Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。
  ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、液晶ディスプレイのみの表示になります。
- お使いのテレビによってはテレビの解像度が液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。

「画面の設定」で切り替える

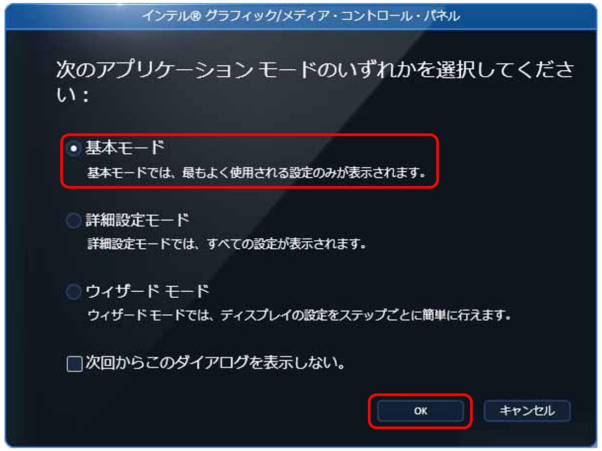
Point

- 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
  - ・何も表示されない場合
    何も操作しないでお待ちください。10 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【 】（Windows）＋【P】キーを押して、表示先を切り替えてください。
  - ・正常に表示されない場合
    外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。
- 2 つのディスプレイで同時に表示する場合、DVD-VIDEO などの著作権保護を有するコンテンツを再生することはできません。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「グラフィック プロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2 「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください：」というメッセージが表示された場合は、「基本モード」を選択し、「OK」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 「ディスプレイ」の一覧で「マルチ ディスプレイ」をクリックします。

4 表示するディスプレイを選択します。

●1 つのディスプレイで表示する場合

「動作モード」の をクリックして「シングルディスプレイ」を選択し、「主ディスプレイ」の をクリックして表示するディスプレイを選択します。



●2 つのディスプレイで同時に表示する場合

「動作モード」の をクリックして「クローン ディスプレイ」を選択します。



Point

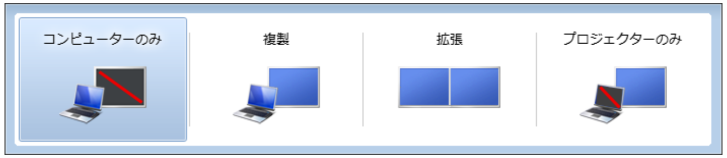
- 2 つのディスプレイで同時に表示する場合、主ディスプレイと 2 番目のディスプレイの設定は次のようにしてください。
  - ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
    - - 主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
    - - 2 番目のディスプレイ：PC モニター
  - ・液晶ディスプレイとデジタルテレビの場合
    - - 主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
    - - 2 番目のディスプレイ：デジタルテレビ
- 主ディスプレイ、2 番目のディスプレイの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「一般設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

5 「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

キーボードで切り替える

キーボードで表示する画面を切り替えるには、【】（Windows）＋【P】キーを押します。



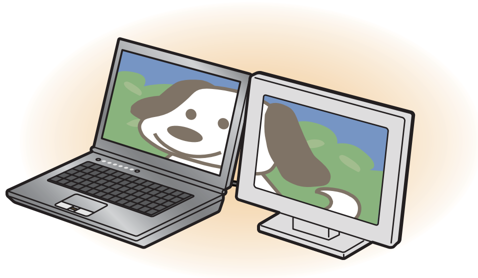
2 つのキーを押すごとに、「コンピューターのみ（液晶ディスプレイ表示）→複製（液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

Point

- プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「「画面の設定」で切り替える」（→ P.21）をご覧ください。

マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコンの液晶ディスプレイと接続したディスプレイを使用して、2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。



■ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコンの液晶ディスプレイを主ディスプレイ、接続したディスプレイを 2 番目のディスプレイに設定してください。
- マルチモニター機能の使用中のご注意
  - ・マルチモニター機能を使用中は、キーボードでディスプレイの表示を切り替えることはできません。
  - ・2 つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、表示するディスプレイの設定を変更しないでください。
  - ・2 番目のディスプレイのみに表示されているソフトウェアを起動中に、2 番目のディスプレイの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。

● 主ディスプレイのみで表示されるもの
- ・液晶ディスプレイの全画面表示
- ・一部のスクリーンセーバー
- ・動画再生画面の全画面表示
- ・アクセラレーター機能を使用しての動画再生画面

● 発色数についての注意
- ・主ディスプレイと 2 番目のディスプレイで、別々の発色数を設定しないでください。

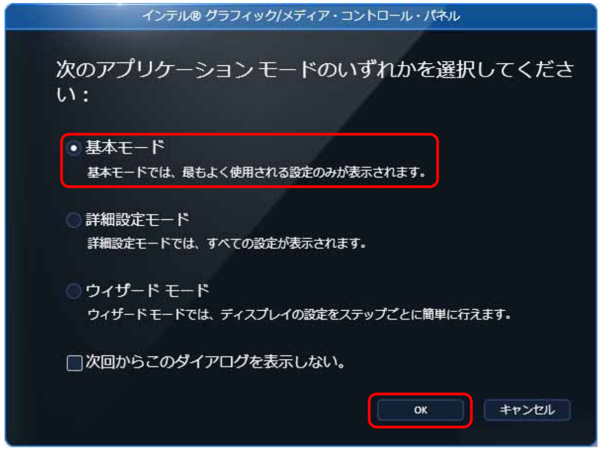
■ マルチモニター機能を設定する

1 **外部ディスプレイをパソコン本体にある外部ディスプレイコネクタに接続します。**

2 **デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「グラフィック プロパティ」をクリックします。**

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

3 **「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください：」というメッセージが表示された場合は、「基本モード」を選択し、「OK」をクリックします。**



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

4 **「ディスプレイ」の一覧で「マルチ ディスプレイ」をクリックし、「動作モード」の ▼ をクリックして「拡張デスクトップ」を選択します。**



5 「主ディスプレイ」が「内蔵ディスプレイ」、「2 番目のディスプレイ」が「PC モニター」であることを確認します。

設定が異なっている場合は ▼ をクリックして正しく設定してください。

6 「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

7 デスクトップの変更を確認するメッセージが表示されたら「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Point

- 「主ディスプレイ」、「2 番目のディスプレイ」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

■ アダプターの表示位置を変更する

ここでは使用する 2 つのアダプターの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

1 マルチモニター機能を設定します。

2 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。

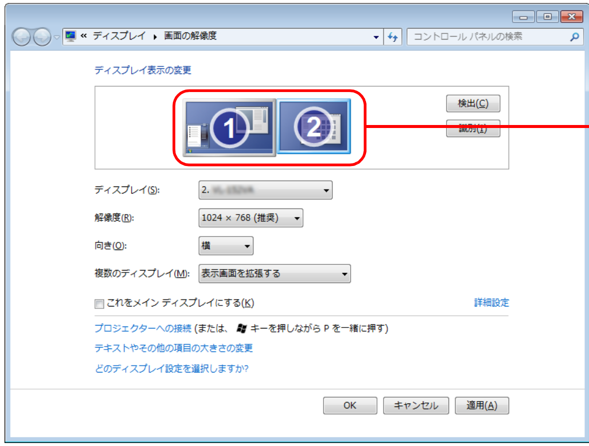
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

3 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

●マルチディスプレイ内を左右に移動させたい場合

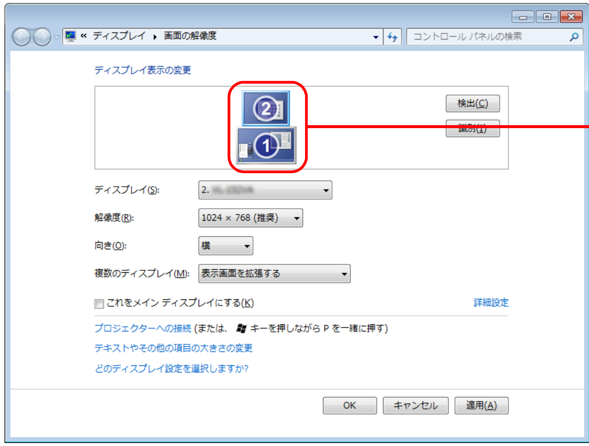
「1」「2」と表示されたディスプレイを左右に並べます。



(画面は機種や状況により異なります)

●マルチディスプレイ内を上下に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを縦に並べます。



(画面は機種や状況により異なります)

4 「適用」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

3. サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

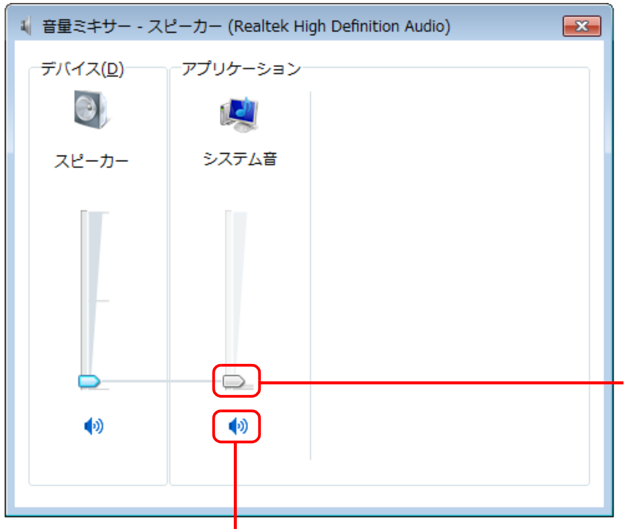
ソフトウェアごとに音量を調節する

1 **音量を調節したいソフトウェアを起動します。**

2 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システム音量の調整」をクリックします。**

「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。

3 **「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。**



・音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

・ミュート
ここをクリックしてにすると音が消え、画面右下の通知領域の表示がに変わります。
もう一度クリックしてにすると元の音量に戻り、画面右下の通知領域の表示もに戻ります。

（画面は機種や状況により異なります）

・デバイス
このパソコンのスピーカーから出る音量です。「画面の音量つまみ」で設定した音量と同じです。
HDMI 出力端子に接続したテレビから音を出す場合は、「HDMI デバイス」と表示されます。

・アプリケーション
起動しているソフトウェアごとに音量を調節できます。
「デバイス」に設定した音量が最大値になります。

4 **（閉じる）をクリックします。**

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

再生や録音する機器ごとに音量を調節する

Point

- HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイから音を出したい場合
  音声の出力先は自動的に切り替わりません。次の手順で再生する機器を選択してください。

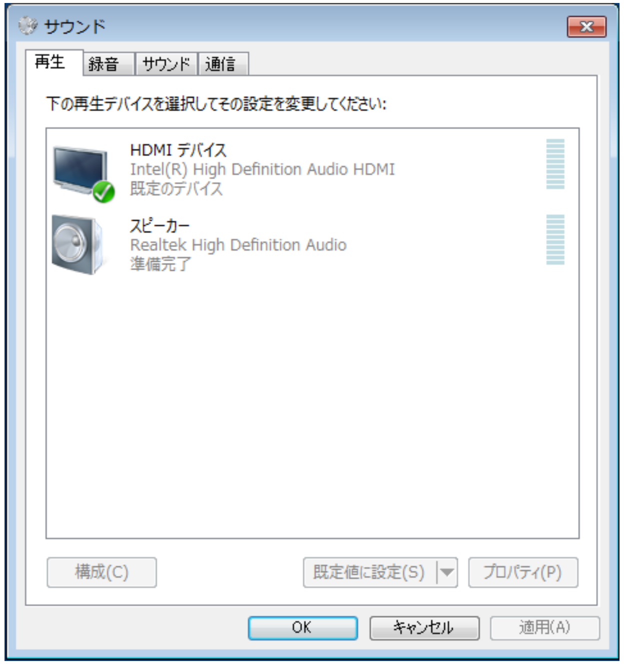
■ 再生する機器を選択する

このパソコンで音声を再生するときに、音声の出力先を選択することができます。

1 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 **「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。**



(画面は機種や状況により異なります)

選択した機器にチェックマークが付きます。

3 **「OK」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

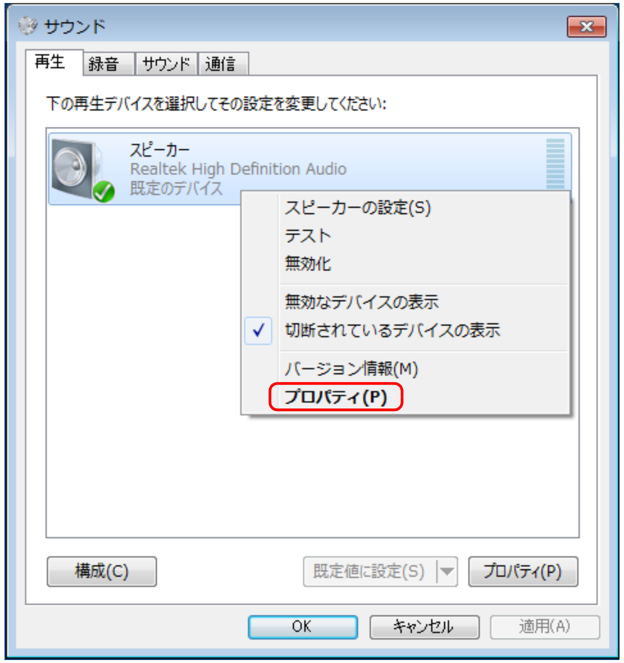
■ 再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

1 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 **「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。**

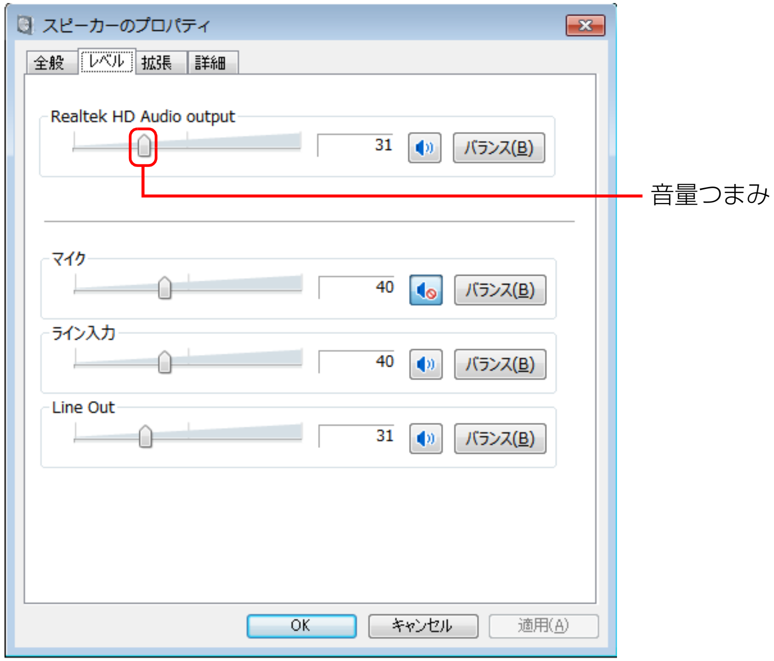


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **「レベル」タブをクリックします。**

4 **音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。**



・ :スピーカーから音が聞こえます。
・ :スピーカーから音が聞こえません(ミュートになっています)。
・「バランス」:左右の音量のバランスを調節できます。

5 **「OK」をクリックします。**

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

6 **「OK」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

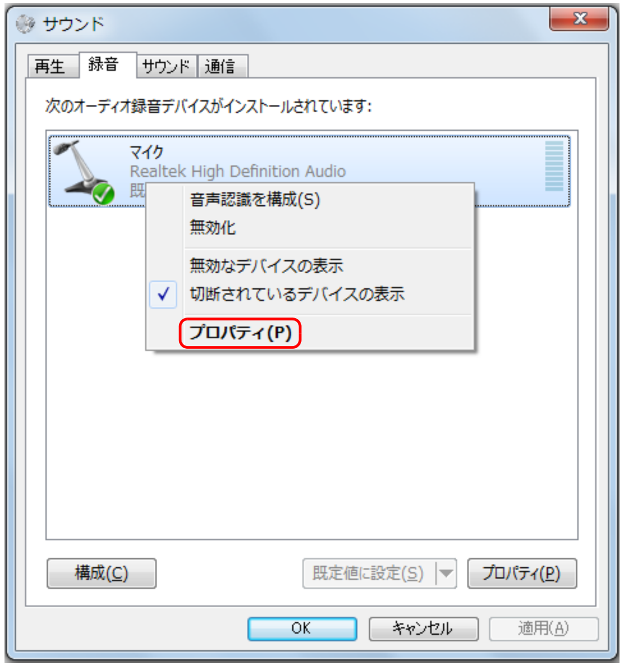
■ 録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 「録音」タブの「マイク」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

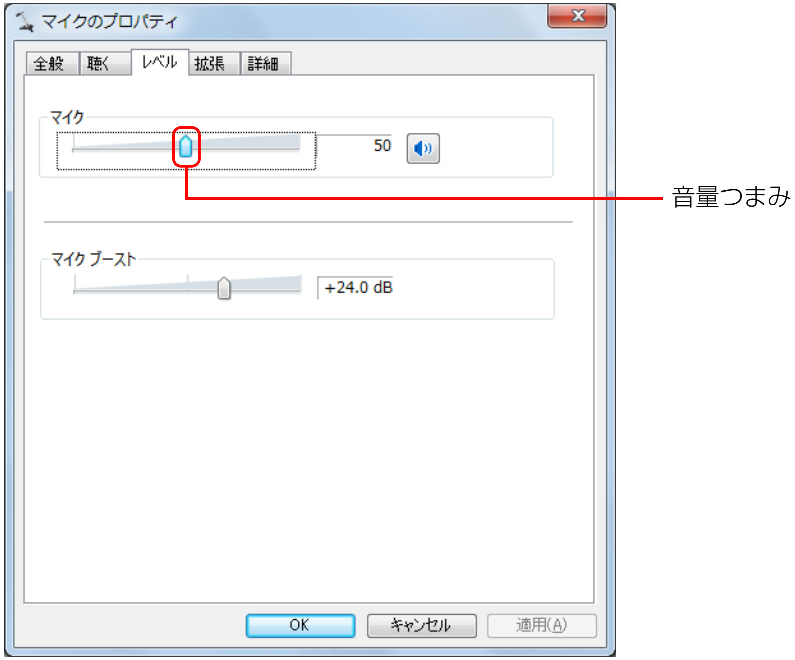


（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「マイクのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「レベル」タブをクリックします。

4 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- ：スピーカーから音が聞こえます。
- ：スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。

5 「OK」をクリックします。

「マイクのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

6 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

Point

- 「録音」タブの「マイク」のプロパティの「レベル」タブに表示される「マイクブースト」は、内蔵マイクのマイクブーストのレベルを調節することができます。
  ただし、次の手順で外部接続のマイクを調整することもできます。
  1. （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。
  2. 「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウ右上の をクリックします。
  3. 表示されるウィンドウで、「マイク端子のマイクブースト設定を固定します（マイクブーストの音量スライダーで調節できません）。」のチェックを外します。

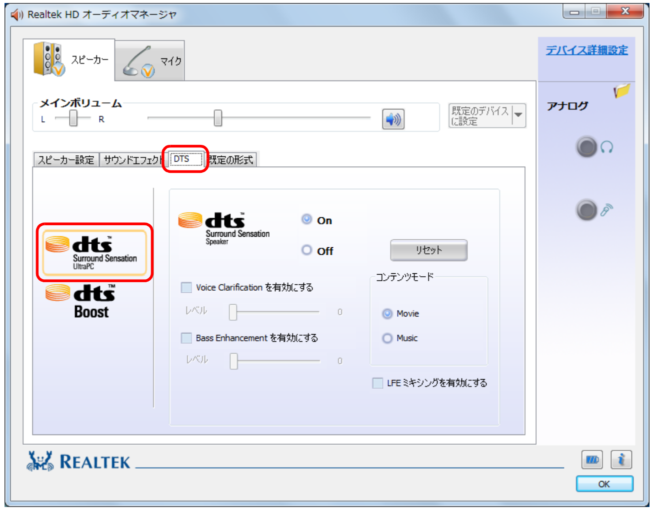
スピーカーの音質を調節する

■ DTS Surround Sensation | UltraPC^{TM} を使って調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるサラウンド効果や、重厚感のある低音を実現します。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

2 「DTS」タブ▶「dts Surround Sensation UltraPC」の順にクリックします。



3 各項目を設定して、スピーカーの音質を変更します。

・dts On/Off
DTS Surround Sensation | UltraPC™ を使用する場合は、「On」の ◎ をクリックして ◉ にします。

・Voice Clarification を有効にする
声の帯域信号の明瞭度を上げ、音質を向上させることで、セリフなどが明瞭に聞こえます。

・Bass Enhancement を有効にする
倍音成分をコントロールし、厚みのある豊かな低音になります。

・コンテンツモード
再生するコンテンツにより、「Movie」または「Music」を選択します。

・LFE ミキシングを有効にする
左右両方のスピーカーから低音を出します。
※ LFE ミキシングは 5.1ch 音源ソースの場合のみ有効です。

スピーカーの音圧を調節する

■ DTS Boost™ を使って調節する

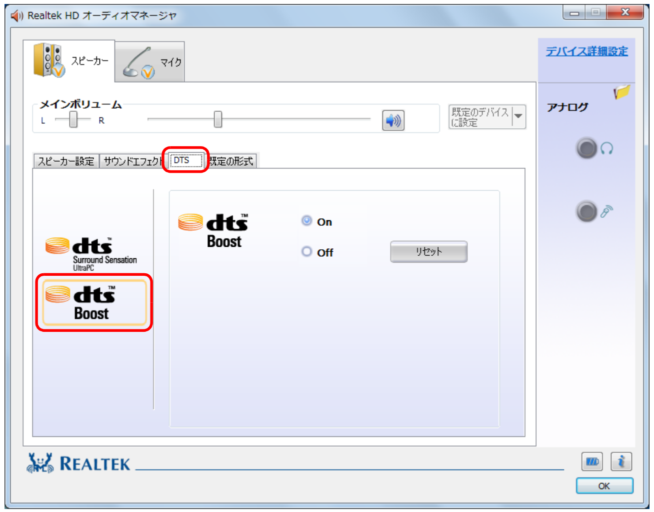
パソコンに内蔵されているスピーカーの音圧を、より詳細に調節することで迫力のある豊かな音を実現します。

重要

- DTS Boost™ の音圧レベルの調節は、内蔵スピーカーのみ対象となります。
  ヘッドホン・ラインアウト兼用端子に接続した機器の音圧レベルの調節はできません。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

2 「DTS」タブ▶「dts Boost」の順にクリックします。



3 DTS Boost™ を使用する場合は、「On」の ◎ をクリックして ◉ にします。

兼用端子の機能切り替え

このパソコンに搭載されているオーディオの入出力端子は、複数の機能を兼用しています。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。
オーディオの入出力端子の場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時はそれぞれ「ヘッドホン」「マイク入力」として機能します。
設定を変更することにより、「ライン出力」「ライン入力」として機能させることができます。
これらの設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

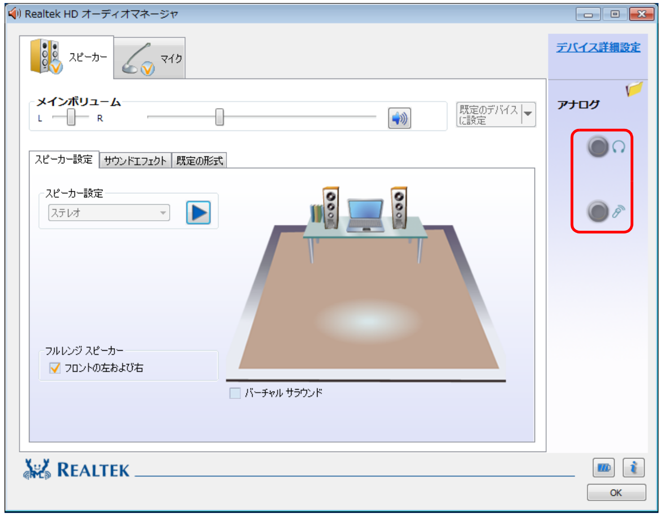
- マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

1 機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。

機器を接続していないときは、切り替えられません。

2 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

3 切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

デバイスを選択するウィンドウが表示されます。

4 使用するデバイスを ☑ にします。



（画面はヘッドホン・ラインアウト兼用端子の設定画面です）

●ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の場合

・「ヘッドフォン」：ヘッドホン出力として動作します。
　内蔵スピーカーから音が出なくなります。

・「ライン出力」：ライン出力として動作します。
　内蔵スピーカーからも音が出ます。

●マイク・ラインイン兼用端子の場合

・「マイク入力」：マイク入力として動作します。

・「ライン入力」：ライン入力として動作します。

Point

- 各端子に機器を接続するとデバイスを選択するウィンドウが表示されるように設定する場合
「オーディオ端子の機能の選択：」ウィンドウで「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」の ☐ を ☑ にします。

5 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。
無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→ P.39）をご覧ください。

重要

- ネットワーク設定時のご注意
  TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。
- セキュリティ対策をしてください
  初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。
  このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現していたりする可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器
  ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。
  ・ダイヤルアップルーター
  ・ブロードバンドルーター
  ・ブロードバンドモデム
  ・ハブ
- LAN ケーブル
  ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。
- ネットワーク機器のマニュアル
  お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

LAN ケーブルを接続する

⚠警告

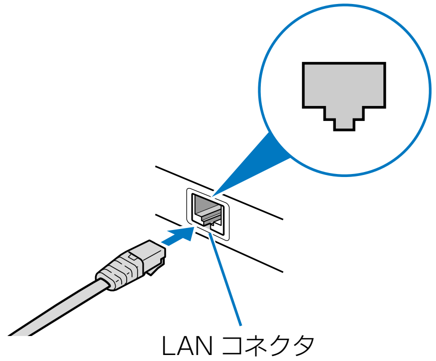
- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
  落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
  落雷による感電、火災の原因となります。

⚠注意

- LAN コネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。
- LANケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。
  接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。**

2 **パソコン本体の LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。**



コネクタは または の向きです。形を互いに合わせてしっかり差し込みます。

3 **ネットワーク機器の電源を入れます。**

4 **パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。**

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。

Point

- スリープ／休止状態の解除をお勧めします
  LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
  なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態」－「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.46）をご覧になり、自動的にスリープにしない設定に変更してください。
- LAN ケーブルを取り外すときは
  LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピューター名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

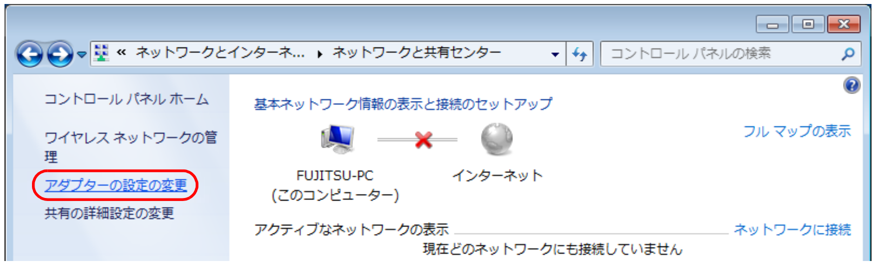
■ TCP/IP の設定

Point

- TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」の順にクリックします。**

2 **「ネットワークと共有センター」ウィンドウ左の「アダプターの設定の変更」をクリックします。**



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

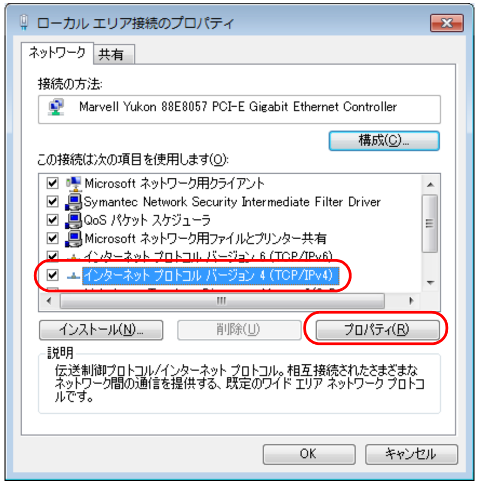
ネットワーク接続の一覧が表示されます。

3 一覧から「ローカルエリア接続」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



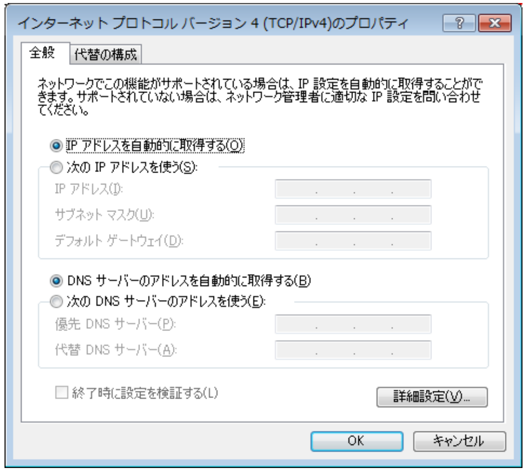
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックして次に進みます。
管理者アカウントのパスワードが必要な場合は、そのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。

4 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。



他のプロトコルのネットワークに接続する場合は、お使いのネットワークにあわせて設定してください。

5 IP アドレスの設定をします。



●ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

1.「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が ◉ になっていることを確認します。
◎ になっている場合は、◎ をクリックして ◉ にします。

●ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1.「次の IP アドレスを使う」の ◎ をクリックして ◉ にします。
2.「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.1
3.「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。
例：255.255.255.0

Point

- IP アドレスの重複にご注意ください
パソコン本体の IP アドレスをブロードバンドモデムやルーター、お使いのネットワーク上にある他のパソコンと重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

6 「OK」をクリックします。

7 「閉じる」をクリックします。

8 画面右上のをクリックし、表示されているすべてのウィンドウを閉じます。

続いて、フルコンピューター名、ワークグループを確認します。

■ フルコンピューター名とワークグループの確認

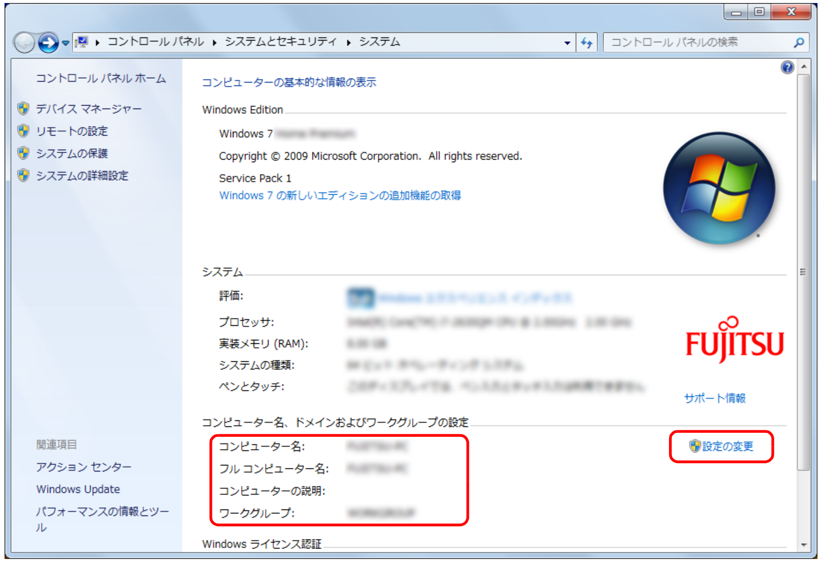
Point

- フルコンピューター名、ワークグループを変更する場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「システム」の「コンピューターの名前の参照」の順にクリックします。

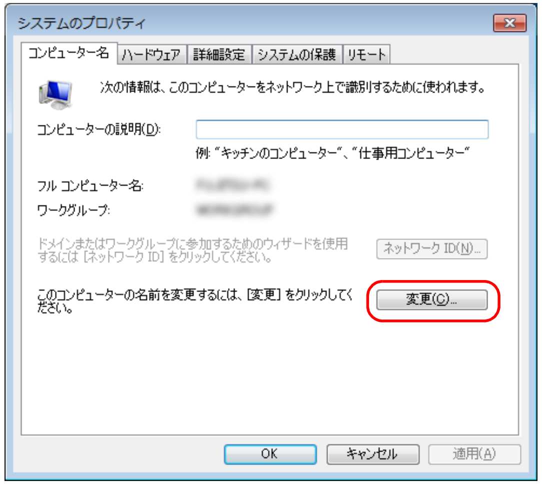
「システム」ウィンドウが表示されます。

2 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピューター名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピューター名」または「ワークグループ」を変更します。



●フルコンピューター名

ネットワーク上で、パソコンを識別するための名前です。設定するときは、他のパソコンと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

●ワークグループ

ネットワークにつながったパソコンの集まりを表します。複数のパソコンに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。

ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンに同じワークグループを設定してください。

4 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

無線 LAN

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、『取扱説明書』－「セットアップする」－「インターネットの設定をする」－「無線 LAN でインターネットに接続する」をご覧ください。

無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

■ 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
  ・ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
  ・メールの内容
  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
  ・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
  ・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  ・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  ・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。
そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。
しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。
セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
  - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

■ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

■ 無線 LAN による通信を行うための注意

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
- IEEE 802.11gとIEEE 802.11bが混在する環境では、IEEE 802.11gはIEEE 802.11b との互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g と IEEE 802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用中、特に無線LANで通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
  また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
  無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
  - ・このパソコンと受信機の距離を離す
  - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
  - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。

- 近くに他のチャンネルを使用している無線LAN機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線LAN機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線LAN機器から3m以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

■ 良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線LANの種類	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g準拠	見通し半径25m以内
IEEE 802.11n準拠	見通し半径50m以内

ただし、無線LANの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線LANは、Bluetoothワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz帯）を使用するため、パソコン本体の近辺でBluetoothワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
- Bluetoothワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
  - ・Bluetoothワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は10m以上離して使用する。
  - ・Bluetoothワイヤレステクノロジー機器の電源を切る。
（単独で電源を切れないものを除く）

無線 LAN の仕様

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、 IEEE 802.11n 準拠、（Wi-Fi® 準拠）[注 1]
転送レート	DS-SS：11 ～ 1Mbps（自動切り替え） OFDM：150 ～ 6Mbps （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 65 ～ 6Mbps （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 ～ 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz ～ 2,483.5MHz
チャンネル数 [注 7]	IEEE 802.11b 準拠：1 ～ 13ch（DS-SS）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11g 準拠：1 ～ 13ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11n 準拠：20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 2.4GHz モード 1 ～ 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用）[注 2] [注 3] 2.4GHz モード [1、5]/[2、6]/[3、7]/[4、8]/[5、9]/[6、10]/[7、11]ch[注 4]
セキュリティ [注 8]	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット）[注 5] WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下 [注 6]

注 1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 2：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40 を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

注 3：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 4：［m、n］は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注 5：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注 6：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

注 7：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ～ 13 を使用しています。
無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ～ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 8：IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ（PSK）を AES に設定する必要があります。

5. スリープ／休止状態

スリープ／休止状態とは

スリープ

パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。

スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。

■ スリープに切り替える操作

（スタート）▶ シャットダウン ▷ の ▷ ▶「スリープ」の順にクリックします。

ディスプレイの表示が消え、スリープになります。

休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。
スリープよりも待機状態にしたり、復帰（レジューム）するための時間が長くなりますが、消費電力は削減されます。

■ 休止状態に切り替える操作

● （スタート）▶ シャットダウン ▷ の ▷ ▶「休止状態」の順にクリックします。
ディスプレイの表示が消え、休止状態になります。

Point

- 液晶ディスプレイを閉じたときにスリープに切り替わるように設定する
  ご購入時の状態では、液晶ディスプレイを閉じると休止状態に切り替わるように設定されています。
- 液晶ディスプレイを閉じたときにスリープに切り替わるように設定するには、「電源ボタンを押したとき／液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する」（→ P.48）をご覧ください。
- 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。
  その場合は、電源ボタンを押してください。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰（レジューム）に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰（レジューム）しないでください。必ず、10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰（レジューム）させた後、必ず 10 秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰（レジューム）のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
  なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるように設定されています。「電源オプション」ウィンドウで、設定の変更を行ってください。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- 周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、復帰（レジューム）するときに周辺機器の情報が初期化されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。
- DVD-VIDEO などの動画再生時は、スリープや休止状態になりません。
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
  ・OS の起動処理中または終了処理中
  ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンター出力中など)、および処理完了直後
  ・ハードディスクにアクセス中
  ・オートラン CD-ROM/DVD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM）を使用中
  ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
  ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  ・ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
  ・ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
  ・マルチモニター機能を使用中
  ・ネットワークに接続して通信中
  ・デジタルテレビに表示しているとき

スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

電源プランを変更する

ご購入時は次の 3 つの電源プランが用意されています。

- バランス
  ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと電源消費のバランスをとります。
- 省電力
  可能な限りコンピューターのパフォーマンスを低下させ、電源の消費を抑えます。
- 高パフォーマンス
  パフォーマンスを優先しますが、電源の消費が増える可能性があります。

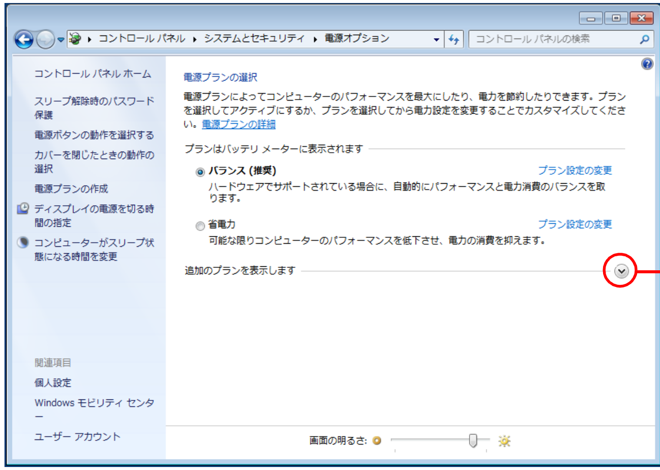
Point

- 電源プランを「高パフォーマンス」に設定すると、バッテリ駆動時間が短くなります。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 お使いになる状況に適した電源プランの をクリックして にします。



「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加のプランを表示します」の をクリックして「高パフォーマンス」を表示させます。

3 をクリックします。

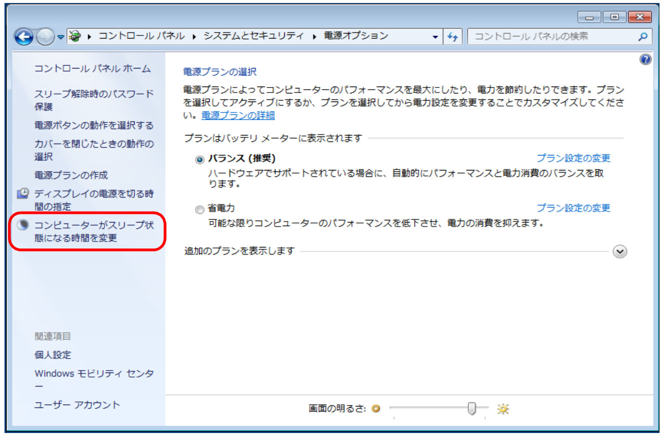
なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各電源プランの設定を変更することができます。

スリープになるまでの時間を変更する

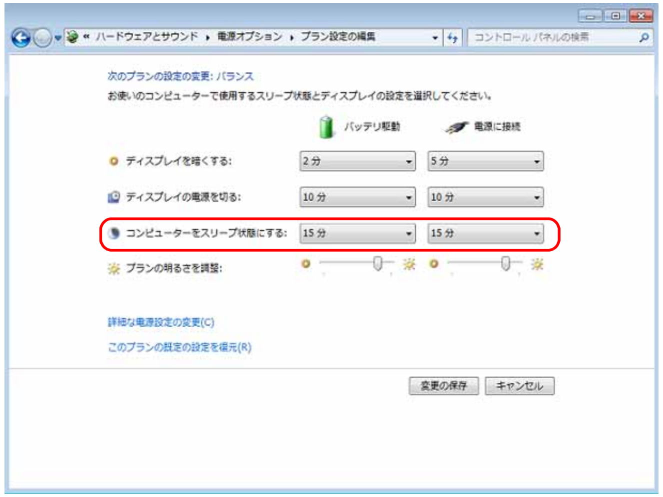
1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。**

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 **「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。**



3 **「コンピューターをスリープ状態にする」の設定を変更します。**



4 **「変更の保存」をクリックします。**

Point

- 設定を元に戻す

変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。

1. 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
2. 「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4. をクリックします。

電源ボタンを押したとき／液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する

■ ご購入時の設定

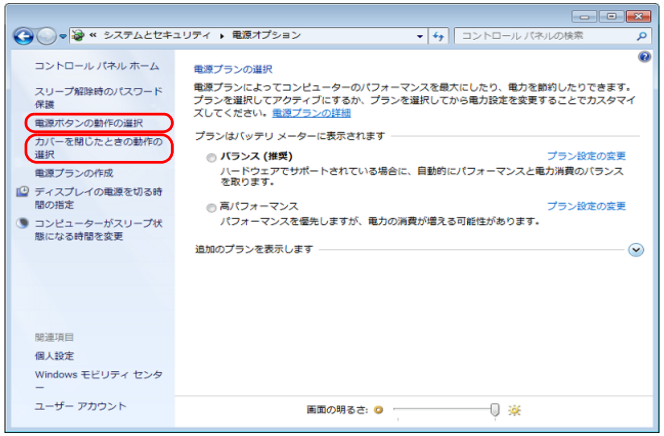
- 電源ボタンを押す：シャットダウン
- 液晶ディスプレイを閉じる：休止状態に切り替わる

■ 設定を変更する

1 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。**

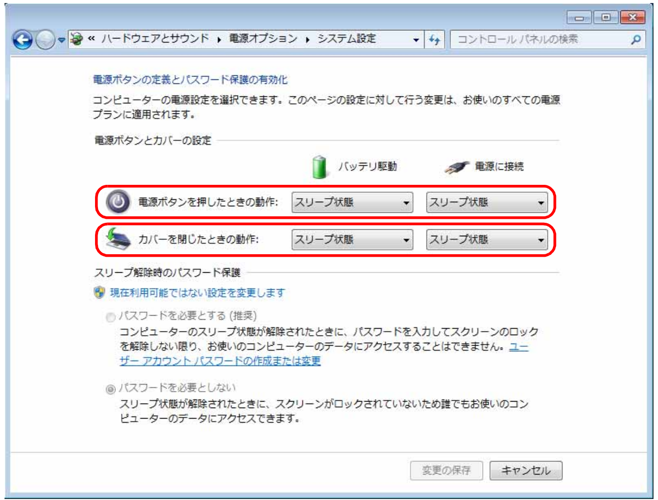
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 **「電源ボタンの動作の選択」または「カバーを閉じたときの動作の選択」をクリックします。**



・電源ボタンの動作の選択
　電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する場合、クリックします。
・カバーを閉じたときの動作の選択
　液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する場合、クリックします。

3 **電源ボタンとカバーの設定の項目を「休止状態」または「スリープ状態」に変更します。**



（画面は機種や状況より異なります）

Point

- 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じた後、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。
- パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめWindows に設定してあるパスワードの入力を必要とすることで、このパソコンのセキュリティを高めることができます。
  1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウで「続行」をクリックします。
     標準ユーザーで Windows にログオンしている場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
  3. 「パスワードを必要とする（推奨）」の左の ○ をクリックして ◉ にします。

4 **「変更の保存」をクリックします。**

ECO Sleep の設定

「ECO Sleep」とは、電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、AC アダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。「ECO Sleep」の設定は、「バッテリユーティリティ」で変更します。

1 **(スタート)▶「すべてのプログラム」▶「バッテリーユーティリティ」▶「ECO Sleep」の順にクリックします。**

「ECO Sleep」ウィンドウが表示されます。

2 **「変更」をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

3 **「ECO Sleep」を有効にする場合は「低待機モード」を、「ECO Sleep」を無効にする場合は「通常モード」をクリックし、「OK」をクリックします。**

Point

- 「ECO Sleep」について、詳しくは (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「バッテリーユーティリティ」▶「ヘルプ」の順にクリックすると表示されるヘルプをご覧ください。
- 「ECO Sleep」が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態ではバッテリ充電ランプは点灯しません。

6. 電源オフ USB 充電

電源オフ USB 充電とは

電源オフ USB 充電とは、パソコンが電源オフ、スリープ、休止状態のときでも、USB 充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。
電源オフ USB 充電は、ご購入時には無効に設定されています。
「電源オフ USB 充電ユーティリティ」で設定を変更することができます。

電源オフ USB 充電を行ううえでの注意

充電を必要としない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能に対応する USB コネクタに接続しないでください。

※ 電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

- USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能対応以外の USB2.0 コネクタに接続してください。
- 周辺機器によっては、電源オフ USB 充電をできない場合があります。
- 電源ボタンを４秒以上押してこのパソコンの電源を切った場合は、電源オフUSB 充電はできません。
- スリープから復帰したときに、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続した USB 周辺機器について、次の現象が発生する場合があります。
  なお、現象が発生しても USB 周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
  ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
  ・「自動再生」ウィンドウが表示される
  ・接続した USB 周辺機器のドライブ名が変わる
  ・接続した USB 周辺機器と連携しているソフトウェアが起動する

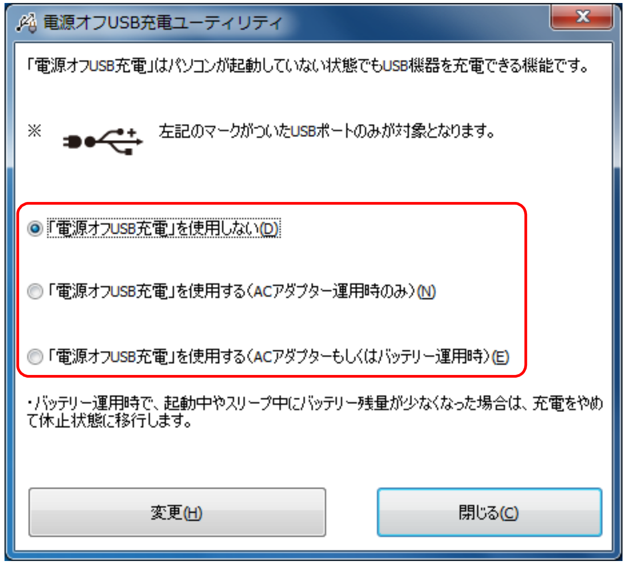
「電源オフ USB 充電ユーティリティ」の使い方

1 （スタート）▶「すべてのプログラム」▶「電源オフ USB 充電ユーティリティ」▶「設定」の順にクリックします。

「電源オフ USB 充電ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

2 お使いになる設定を選択します。



- **「電源オフ USB 充電」を使用しない**

  電源オフ USB 充電が無効になります（ご購入時の設定）。

- **「電源オフ USB 充電」を使用する（AC アダプター運用時のみ）**

  ACアダプタが接続されている場合のみ電源オフUSB充電が有効になります。

- **「電源オフ USB 充電」を使用する（AC アダプターもしくはバッテリ運用時）**

  AC アダプタが接続されていない場合でも電源オフ USB 充電が有効になります。

Point

- バッテリ運用時にバッテリ残量が 12%以下になると、電源オフUSB充電は停止します。AC アダプタを接続すると、電源オフ USB 充電を再開します。

3 「変更」をクリックします。

「設定を変更しました。」というメッセージが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

7. ソフトウェア

このパソコンには、あらかじめたくさんのソフトウェアがインストールされています。一度削除したソフトウェアをもう一度使いたいときや、ソフトウェアの動作がおかしくなったとき、ソフトウェアをインストールし直すことができます。

ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意

● ソフトウェアをインストールする前には、必ずソフトウェアのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する

● インストールし直す場合は、元のソフトウェアを削除する

● 管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンする
ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はソフトウェアの削除ができません。管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンしてください。
ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。

1. （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」の順にクリックします。
2. 「ユーザーアカウント」をクリックします。
「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。

● 起動しているソフトウェアをすべて終了する
他のソフトウェアが起動していると、エラーが発生する場合があります。ソフトウェアの削除をする前に、次の作業を行ってください。
・起動しているソフトウェアをすべて終了する
・タスクバーに常駐するタイプのソフトウェアをすべて終了する
・スクリーンセーバーを「なし」に設定する

1. （スタート）▶「コントロールパネル」▶「デスクトップのカスタマイズ」の順にクリックします。
2. 「個人設定」の「スクリーンセーバーの変更」をクリックします。
3. 「スクリーンセーバー」を「（なし）」にして、「OK」をクリックします。

● 共有ファイルは削除しない
ソフトウェアの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。
共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

インストール

搭載ソフトウェアをインストールする

次の手順で、ハードディスクのリカバリ領域からソフトウェアをインストールすることができます。

1 （スタート）▶「すべてのプログラム」▶「ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

3 「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

4 「機種名」欄の右側の をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

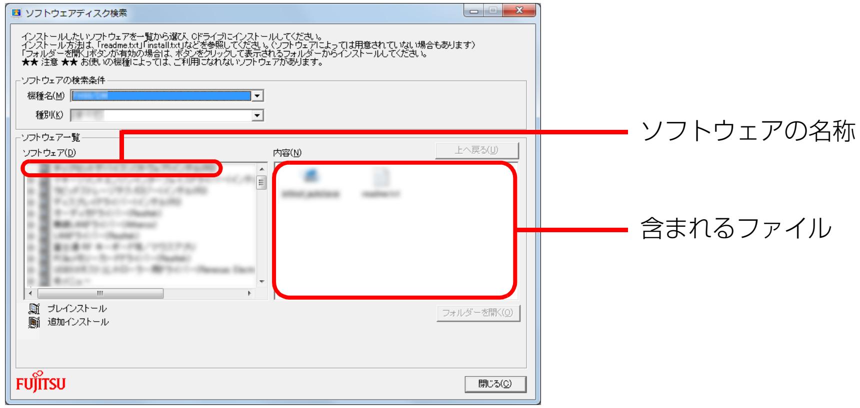
パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。

5 「種別」欄の右側の をクリックし、表示されたリストから更新したいドライバーの種類をクリックして選択します。

「ソフトウェア一覧」に、選択した種別のドライバーが表示されます。

6 「ソフトウェア一覧」からインストールするソフトウェアの名称をクリックしてインストールします。

ソフトウェアの名称をクリックすると、ソフトウェアに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

7 ソフトウェアのインストール方法は、各ソフトウェアによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

Point

- リカバリ領域を削除している場合は、ご自身で作成した「ソフトウェアディスク」から、ソフトウェアをインストールしてください。

「Office 2010」をインストールし直す

「Office 2010」のみインストールし直したい場合は、次の添付ディスクを用意してください。

- 「Office Personal 2010」

インストール中にプロダクトキーとライセンス認証が必要になります。認証手順についてはパッケージに同梱されているマニュアルをご覧ください。

Point

- 「Office 2010」のディスクが必要になるのは、次の場合です。
  ・「Office 2010」をアンインストールした
  ・リカバリしても「Office 2010」がインストールされない
- 「Office 2010」を再インストールした場合は、「Microsoft Outlook 2010」が既定のメールソフトに登録されません。
  「Microsoft Outlook 2010」を既定のメールソフトとして登録する場合は、次の手順で登録してください。
  1. (スタート)ボタン▶「既定のプログラム」▶「既定のプログラムの設定」の順にクリックします。
  2. 「Microsoft Outlook」▶「すべての項目に対し、既定のプログラムとして設定する」▶「OK」の順にクリックします。

  また、「Microsoft Outlook 2010」をスタートメニューに登録する場合は、次の手順で登録してください。
  1. (スタート)ボタン▶「すべてのプログラム」▶「Microsoft Office」の順にクリックします。
  2. 「Microsoft Outlook 2010」を右クリックし、表示されたメニューから、「スタートメニューに表示する」をクリックします。

ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

■ このパソコンに搭載されているドライバーについて

- 各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーが、サポートページ(http://azby.fmworld.net/support/)の「ダウンロード」で公開されている場合があります。
  サポートページ(http://azby.fmworld.net/support/)の「ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。
- ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。
- ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。
  1. (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」の順にクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
  3. 「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
     「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
  4. 「機種名」欄の右側の ▼ をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名(品名)をクリックして選択します。
     パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。
  5. 「種別」欄の右側の ▼ をクリックし、表示されたリストから更新したいドライバーの種類をクリックして選択します。
     「ソフトウェア一覧」に、選択した種別のドライバーが表示されます。
  6. 「ソフトウェア一覧」から更新したいドライバーをクリックして選択します。
     選択したドライバーが格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

アンインストール

ソフトウェアのアンインストール機能を使う

Windows に対応したソフトウェアには、アンインストール機能（ソフトウェアを削除する機能）が用意されているものがあります。
ソフトウェアによって操作方法が異なります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

「プログラムのアンインストール」機能を使う

1. **起動しているソフトウェアをすべて終了します。**
2. **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「プログラム」の「プログラムのアンインストール」の順にクリックします。**
3. **一覧から削除したい項目をクリックします。**
4. **「アンインストールと変更」（または「アンインストール」）をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアを削除します。**
5. **ソフトウェアの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、 をクリックします。**

Point

- 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないソフトウェアについては、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ソフトウェアを削除した後に

■ 削除したソフトウェア名がメニューに残った場合

削除しても、（スタート）▶「すべてのプログラム」で表示されるメニューの中に削除したソフトウェア名が残り、ポイントすると「（なし）」と表示される場合があります。ソフトウェア名を右クリックし、表示されるメニューから「削除」をクリックして、「はい」をクリックするとメニューから削除できます。

■ パソコンを起動するたびにエラーが表示される場合

ソフトウェアを削除しても、「スタートアップ」フォルダーに、そのソフトウェアのショートカットアイコンが登録されたままになっていると、「ショートカットエラー」というメッセージが表示されることがあります。

次の手順で、「スタートアップ」フォルダーから、該当するショートカットアイコンを削除してください。

1. **（スタート）をクリックします。**
2. **「すべてのプログラム」を右クリックし、表示されるメニューから「開く - All Users」をクリックします。**
   「スタート メニュー」ウィンドウが表示されます。
3. **「プログラム」▶「スタートアップ」の順にクリックします。**
   登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。
4. **削除したいソフトウェアを右クリックし、表示されるメニューから、「削除」をクリックします。**
5. **「はい」をクリックします。**

BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。
BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

Point

- BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- BIOS セットアップ画面の表示について
  HDMI出力端子に接続したテレビやディスプレイにはBIOSセットアップ画面は表示されません。
- 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
  パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST：Power On Self Test）といいます。
  ・起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください。
  ・POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。また、HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには表示されません。
  ・パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

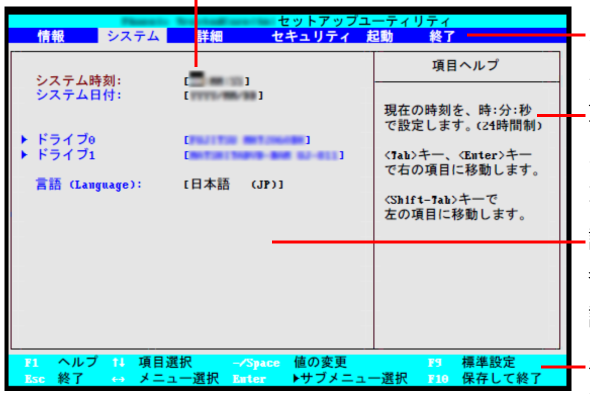
1 **AC アダプタを接続し、【F2】キーを押しながら、パソコンの電源を入れます。**

2 **「FUJITSU」のロゴ画面が表示され、短いビープ音が鳴ったら、【F2】キーから指を離します。**

BIOS セットアップ画面が表示されます。BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 1 からやり直してください。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

カーソル
設定する項目に合わせます。



(画面は機種や状況により異なります)

メニューバー
メニューの名称が表示されます。

項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー 一覧
設定時に使うキーの一覧です。

設定を変更する

設定の変更はキーボードで操作します。

重要

- BIOS セットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 **【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。**

選択したメニュー画面が表示されます。

2 **【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。**

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【確定・改行 Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【取消 Esc】キーを押します。

3 **【空白・スペース】キーまたは[−]を押して、選択している項目の設定値を変更します。**

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 〜 3 を繰り返してください。

4 **設定を保存して終了します。**

Point

- 設定時に使う各キーの役割

  設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

  ・【↑】キー、【↓】キー

  設定する項目にカーソルを移動します。

  ・【←】キー、【→】キー

  メニューを切り替えます。

  ・【確定・改行 Enter】キー

  「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。

  設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

  ・【空白・スペース】キー

  各項目の設定値を変更します。

  この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 【取消 Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【取消 Esc】キーを２～３回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更前の値を読み込む」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

- 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する

  1.「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

  設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。

  設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。

  2.【←】キーまたは【→】キーで「いいえ」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

  すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

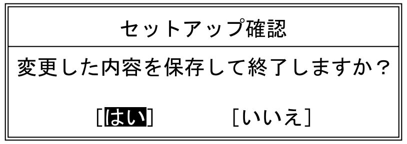
変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。
次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【取消 Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【取消 Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

次の確認メッセージが表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

Point

- BIOS セットアップを終了せずに設定内容を保存する
  次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。
  1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。
     「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1 **BIOS セットアップを起動します。**

2 **【取消 Esc】キーを押します。**
「終了」メニューが表示されます。

3 **【↑】キーまたは【↓】キーを押して「標準設定値を読み込む」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。**
確認のメッセージが表示されます。

4 **【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。**
BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 **【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。**
確認のメッセージが表示されます。

6 **【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【確定・改行 Enter】キーを押します。**
読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。
BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のログオンパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

また、ハードディスク用のパスワードを設定すると、このパソコンのハードディスクを他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時に必ず行うこと
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
  そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
  ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
  ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておく
  また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます
  ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。パスワードの管理には充分注意してください。

パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の 3 つです。

- 管理者用パスワード
  このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
  「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
  このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」メニューの「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を選択して【確定・改行 Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

・入力できる文字種はアルファベットと数字のみです。なお、アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
・入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「＊」が表示されます。
・ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【確定・改行 Enter】キーを押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【確定・改行 Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

6 【確定・改行 Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。【確定・改行 Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【取消 Esc】キーを押してください。

7 「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を「使用しない」以外に設定します。

パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

■ ハードディスク用パスワードを設定する

1 **BIOS セットアップを起動します。**

2 **「セキュリティ」メニューの「ハードディスクセキュリティ」▶「ドライブ0用パスワード設定」を選択して【確定・改行 Enter】キーを押します。**
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 **パスワードを入力します。**
入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「＊」が表示されます。

4 **パスワードを入力したら【確定・改行 Enter】キーを押します。**
パスワードの再入力を求められます。

5 **手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【確定・改行 Enter】キーを押します。**
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

6 **【確定・改行 Enter】キーを押して、設定を終了します。**
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。【確定・改行 Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【取消 Esc】キーを押してください。

パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【確定・改行 Enter】キーを押してください。

- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが間違っています。どれかキーを押してください。」というメッセージが表示されます。その場合は、【確定・改行 Enter】キーを押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、パソコン電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力

パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【確定・改行 Enter】キーを押してください。

- BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」で、パソコンを指定時刻に起動させたり LAN を使って起動させたりする場合に、BIOS のパスワード入力を要求するかどうかを設定することができます。

■ ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。
設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

Point

- 管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります。

パスワードを変更する／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」メニューで変更したいパスワード設定を選択して【確定・改行 Enter】キーを押します。

・管理者用パスワード設定
・ユーザー用パスワード設定
・ハードディスクセキュリティ▶ドライブ 0 用パスワード設定
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 設定してあるパスワードを入力し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

新しいパスワードの入力を求められます。

4 新しく設定したいパスワードを入力し、【確定・改行 Enter】キーを押します。

新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

- パスワード設定時に必ず行うこと
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
  そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
  ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
  ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく
  また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが失われます
  ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
  パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して【確定・改行 Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

6 【確定・改行 Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。【確定・改行 Enter】キーを押して、手順 4 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【取消 Esc】キーを押してください。

Point

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを 4 秒以上押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順 4 ～ 5 で何も入力せずに、【確定・改行 Enter】キーを押してください。

Point

- 管理者以外の方がユーザー用パスワードを削除できるのは、「セキュリティ」メニューの「ユーザー用パスワード文字数」が 0 に設定されているときだけです。0 以外に設定されている場合は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。ユーザー用パスワード文字数の設定については、「セキュリティ」メニューで「ユーザー用パスワード文字数」の項目ヘルプをご覧ください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。
また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。
それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器の拡張カードやメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらの周辺機器を取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。
このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
「らくらくパソコン専用電話相談窓口」のご利用については、『らくらくパソコン活用ブック』－「サポート & サービスのご案内」をご覧ください。

メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

■ 正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器が正常の場合は、BIOS のメッセージは自動では表示されません。
正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、パソコンを起動して「FUJITSU」のロゴ画面が表示されている間に【取消 Esc】キーを押します。

Point

- BIOS セットアップの「詳細」メニュー▶「起動設定」▶「起動時の自己診断画面」▶「使用する」に設定すると、正常時のメッセージを常に表示できます。

- **nnnM システムメモリ テスト完了。**
  システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **nnnK メモリキャッシュ テスト完了。**
  キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **マウスが初期化されました。**
  マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。
- **Please Wait...**
  お待ちください ...
  BIOS セットアップの起動中に表示されます。

■ エラーメッセージ

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。
このマニュアルに記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。

- **拡張メモリエラー。アドレス行 : nn**
  メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。
  このメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードエラーです。**
  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボード接続エラーです。**
  キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。
  テンキーボードや外付けキーボードを接続している場合は、正しく接続されているかを確認し、パソコンを再起動してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **ディスクのエラーです。: ハードディスク n**
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。**
  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。

- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、設定を保存して再起動してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**
  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったり、または 3 回以上同じ操作で起動し直したりしたときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
- **＜F1 ＞キーを押すと継続、＜F2 ＞キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
  日付と時刻の設定値が正しくありません。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  このメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**
  温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **ファンエラー。システムの電源が切れます。**
  冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「らくらくパソコン専用電話相談窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**
  前回の起動時の自己診断テスト中に、サーマルセンサエラーが発生していたことを示します。
- **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**
  前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。
- **Invalid system disk**
  Replace the disk, and then press any key
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【空白・スペース】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
  Replace and press any key when ready
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【空白・スペース】キーなどを押してください。
- **NTLDR is missing**
  Press any key to restart
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【空白・スペース】キーなどを押してください。

- **Remove disks or other media.**
  Press any key to restart
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【空白･スペース】キーなどを押してください。

- **Operating system not found**
  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

文字コードの取り扱いに関する注意

環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのソフトウェアや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。

文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、E メールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

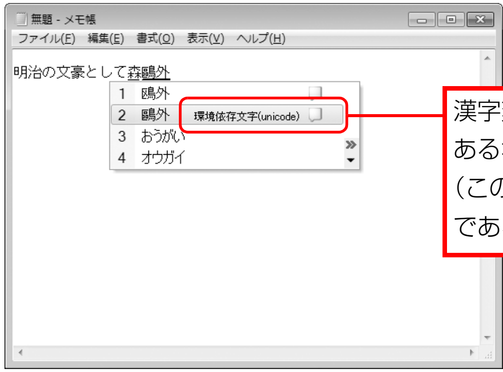
トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。

- E メールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
- ソフトウェアが環境依存文字に対応していない場合、ソフトウェアが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。
- お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。
- インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
  例　ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。

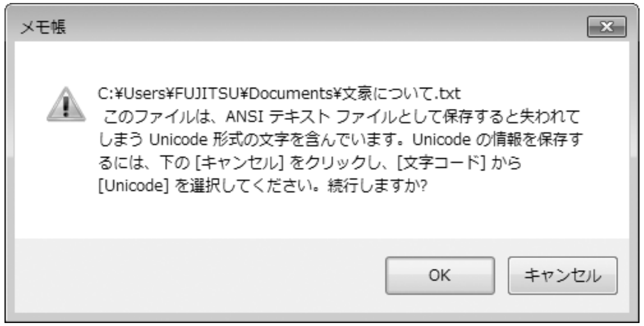
次に表示されるメッセージの例を説明します。

例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ



漢字変換のときに、環境依存文字が変換候補にある場合に表示されます。
（この例では、「鷗」という文字が環境依存文字であることを示しています。）

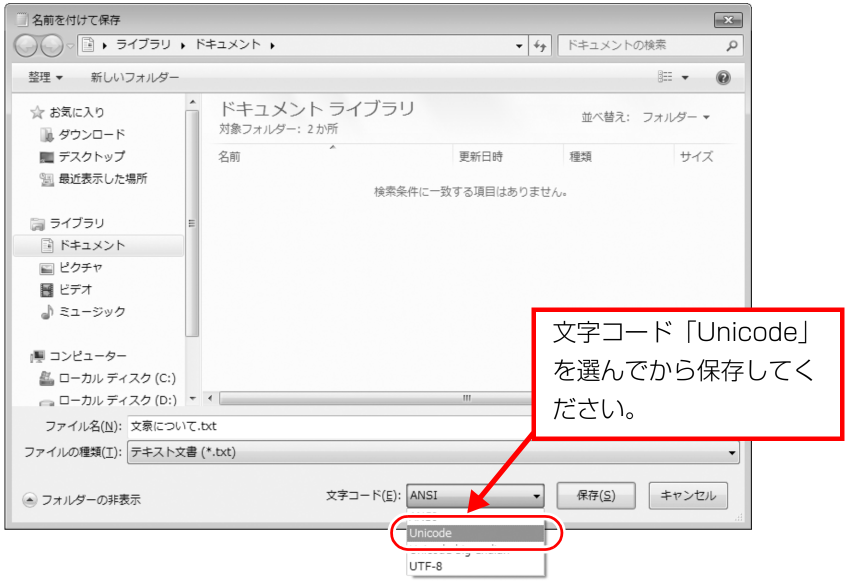
例 2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ



- 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。
  「キャンセル」をクリックすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。

Point

- 文字コードを他の形式にして保存する
  環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。
  ただし、Unicode に対応していない OS やソフトウェアでこのファイルを開くと、文字化けを起こしたり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。



Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性

Windows 7 および Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP 以前の OS は「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista　改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	瀞	瀞
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	楢	楢	7026	瀦	瀦
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	榊	榊	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FBD	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	厩	厩	6062	恢	恢	6A0B	樋	樋	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喩	喩	6357	捗	捗	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甑	甑
5642	噂	噂	63C3	揃	揃	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	噌	噌	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	瞥	瞥
56C0	囀	囀	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祁	祁
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista　改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
79E4	秤	秤	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	錆	錆
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鎚	鎚
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	辿	辿	9453	鑓	鑓
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞄	鞄
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞘	鞘
7BB8	箸	箸	85F7	藷	藷	8FE6	迦	迦	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	篝	篝	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	籾	籾	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鯖	鯖
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	諺	諺	9061	遡	遡	9C52	鱒	鱒
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	酋	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						

LIFEBOOK

補足情報
B6FJ-6531-01 Z0-00

発 行 日　2011 年 6 月
発行責任　富士通株式会社